

連帯はばたき

連帯ユニオン
関西ゼネラル支部
宣 伝 部

第46号
2022年6月

明るく・楽しく・元気に活動し、産業別労働運動を確立しよう！

職場活動で分会を認知させ、発言力を強化しよう

22春闘最前線

闘って成果をだす、闘って労働者の権利を会社に認めさせる、「働きやすい職場」「働きがいのある職場」にするのが労働組合、視野を広く大きく持ち自分の職場のみならず業界あげて「働きやすい職場」「働きがいのある職場」をめざしているのが連帯労働組合です。

今年の春闘は個社対応となりました。コロナ影響、原材料の高騰等で減収減益という会社が多い中でも、賃上げ7000円(K タオル分会)、時間給45円アップ(T 福社会分会)をはじめ最低でも現状維持という成果をあげています。昨年の賃上げ水準に達していない分会は、納得のいく説明を求めてこれまで頑なに拒否してきた財務諸表の開示を迫るなど闘いを継続しています。また、日給制から月給制に移行(K 林業分会)、慰労金制度の創設(G 労組分会)、失効年休積立制度の創設(T 興業分会)、コロナ対策で職場環境の改善(F 分会)を合意、労働協約にするなどの数々の成果を上げています。この春闘の成果を、未組織の職場のなかまとも分かち合い、もっと多くの人が参加して闘えばもっと大きな成果が期待できるとつぶやき、職場で過半数組合をめざしましょう。職場で分会の発言力を高めていきましょう。

支部には60を超える分会があります。2月開催の第1回支部委員会で、「すべての分会で春闘要求、交渉をしよう」と確認しましたが、春闘要求を出したのは17分会にとどまっています。会社解散や解雇と闘っている分会、特別の事情がある複数人分会がありますが、一人分会の多くが春闘に参加していません。職場のなかまに組合員宣言ができず、職場でひっそりと息を潜めている組合員の存在は、支部の課題であり何より執行部の問題です。



一人分会の多くは、かつて闘えば成果が出る、成果を出すまで闘ってきた人たち、黙っていたら労働者の権利は守れない事を身に染みて経験してきた人たちです。「働きやすい職場」「働きがいのある職場」をめざして、再び連帯組合員としてはばたこう。

(副執行委員長)

なめたらアカンで！労働運動！ 関生総決起集会

5月28日（土）午後6時から、エルおおさかにて、「なめたらアカンで！労働運動！ 関生総決起集会」が開催された。メイン会場の他に別室を用意していたが、それでも足りず立見続出の大盛況であった。

集会では最初に、関生弁護団の永嶋泰久弁護士から、「組合つぶし攻撃の現段階と裁判の現状」と題する報告が行われた。

永嶋弁護士は、関生支部が展開してきた産業別労働運動の特徴を説明した上で、この度の未曾有の弾圧について、「組織的、系統的、全体的」と特徴づけた。大阪広域協同組合（生コン産業の中小企業で構成）の影響下にある会社が2017年12月のストライキを契機に、組合員を次々に解雇し、労働組合からの労働者供給受け入れを打ち切った。これに歩調を合わせるかのように、大阪府警、京都府警、滋賀県警、和歌山県警、奈良県警が府県を超えて一斉に事件を作り上げ、大量逮捕や家宅搜索などに乗り出した。さらに、大阪広域協同組合はヘイト集団などを動員して「関生支部＝反社会的集団」とのキャンペーンを展開し、中央労働委員会では「関生支部は反社会的集団だから労働組合法の保護が適用されない」等という主張を行ってきた。裁判においては、検察も裁判官にこうした印象を刷り込むような主張を繰り返してきたのである。また、この弾圧は今も継続しており、関生支部の街宣活動等に関して警察の介入が続いていることを説明された。



弁護士としての今後の課題として、刑事裁判については、「企業への圧力＝犯罪」という裁判所の考え方は労働運動の否定に等しいことから、これを逆転させることが必要と強調された。また、労働委員会については「関生に労組法適用無し」を許さないとともに、労働者供給受け入れ打ち切りなどについて実効的な救済命令を勝ち取る必要があるとまとめられた。

続いて、関生支部の組合員から各職場の報告が行われ、一連の弾圧の中で仕事を奪われ、経済的にも困難な状況に置かれていること、それでも決してあきらめないし、弾圧をはね返していく覚悟であること等が語られた。

集会終了後は大阪府警までデモを行い、市民に対して弾圧の不当性を訴えた。

未曾有の弾圧のなかで、今後も様々な困難があるであろうが、私たちも連帯労組の一員として、弾圧をはねのける闘いを続けていく決意である。

（書記長）

南大阪平和人権連帯会議主催

沖縄現地学習会

先輩方の推薦で参加させて頂き、食事出来る限り菜食メニューと気遣って頂きました。

1日目（6月3日）

飛行機降りた途端に亜熱帯の湿気を感じたが、小雨で過ごしやすい気温で始まった沖縄戦跡訪問、と言っても、戦跡でない場所はどこにも無い沖縄です。

まずはキャンプ・ハンセンに隣接する飲み屋街で昼食のアメリカサイズのタコス頂く。数々の、軍機による事故、兵士による傷害・殺人、への恐怖、それらと引き換えに米軍相手に生活を営む他に道はない人々も居る。

激しい雨の中、トラックの搬入がなく阻止行動は中止していたキャンプ・シュワブのテント前へ。オジィオバアたちは、カンカン照りの日も、蒸し蒸しと暑い日も、土砂降りの日にもここにかよう。オジィが私たちのバスまで来てくれ、現状説明を伺いエールの拍手を贈る。

次に、ハートロックのある海岸で人気な宇古利島観光、低い山の稜線と大きく広がる湾岸口の美しく穏やかな風景。沖縄戦当時の米軍上陸時の写真を思い浮かべ、それと重ねて想像してみるが、雨の様に降り注ぐ砲弾で樹々が吹き飛ばされ土のむき出しになった島から軍艦で埋まった海を望む恐怖は伺い知れない。



2日目（6月4日）

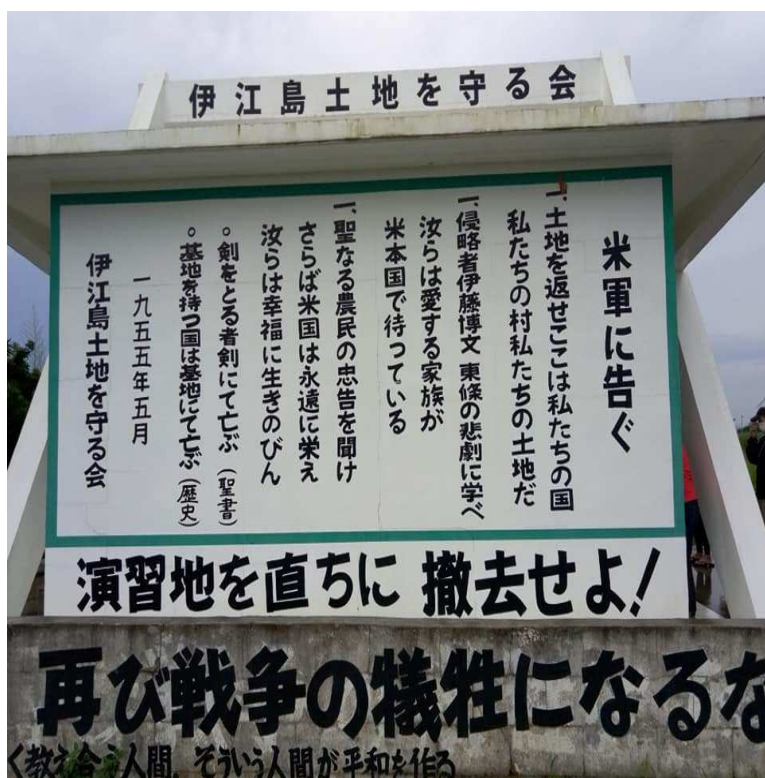
ガイドの〇さんと合流、各地を案内して頂く。

辺野古新基地建設の埋立土砂を積み出す安和棧橋、塩川港にはダンプが往き来し、沖には十数隻の運搬船。海岸の70%は埋め立てられていると。

本部港からフェリーで伊江島へ渡る。だんだん迫ってくる城山(ぐすくやま)が印象的。

伊江港正面には立派なハコモノ施設。その中の郷土資料館には戦時の遺品が。被災者の首が何体も転がる生々しい絵も。ピューリッツァー賞受賞の従軍記者アーニー・パイルの碑。

海岸線は広くて日中は明るいニティア洞。夜の暗闇の滴と湿気の中、焦燥した、あるいは傷ついた同胞・学友



と過ごす、艦砲射撃・砲撃の音に恐怖する時間はどれ程長く苦しかった事だろうか。強制自決、米軍による攻撃により 1500 人以上の方々が犠牲になったと言うサイト情報も。

農地を盗られ、畑は焼かれ、飢えで苦しんだ農民の闘いの場「団結道場」。住民が追い詰められ血で赤く染まったと言われる湧出(わじいー)の岸壁。島内を見渡すシンボルである城山(ぐすくやま)。敗戦を知らずに 2 年間も樹上で潜み生活していたニーバン・ガズイマール。

阿波根昌鴻さんの闘争の資料の詰まった「反戦平和資料館 スチドゥタカラの家」と「やすらぎの家」がある「わびあいの里」、ここでは謝花悦子さんが精神を受け継ぐ生き証人として一時間に渡り坦々と流暢に語り尽くす姿が圧巻だった。

先輩方の質問に応えられた後、若い世代へ「質問・反論はないですか？」との本土の認識への懸念を伺わせる言葉に胸が詰まる。長い人生の内、本土の人との交流の機会は決して多くはなかっただろう。それだけに、現在の政治情勢への危機感をつのらせて居られるのを感じた。フェリーの時間ではあったが後ろめたさも感じつつ逃げるようにそこを去る事に。

最終日（6 月 5 日）

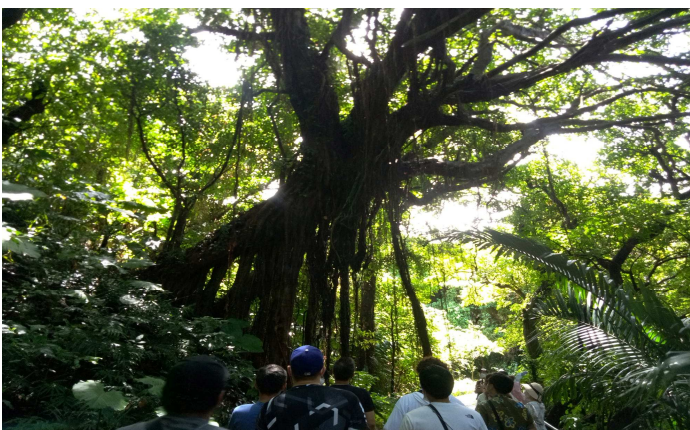
数多くの学徒隊の中で、映画で有名になった「ひめゆり学徒隊」の平和祈念館へ。ロビー正面、まさか巻き込まれるとは思ひもしなかった地獄を知る由もなく笑顔をとたえた、集合写真。学校の沿革 ～ 学徒隊結成・派遣 ～ 戦争 と膨大で詳細な資料・映像。地獄の証言の展示室は外せないが時間切れ、出版コーナーで証言集を求め、個々の全てを網羅した資料集を購入。

唯一好天に恵まれたガンガラ谷、しかし、戦争末期と同じこの時期、ジャングルで沖縄の厳しい蒸し暑さを体感。ここは古代人発掘現場の大規模な観光鍾乳洞で、避難の話題は全く無し。

最後に国際通りで買い物。焼き物工房街を思い出しながらか行くが迷って思わぬ場所にでた。

今回、米軍との土地契約住民と農地として所有権を闘う住民との危機意識の違いを改めて認識する。沖縄の最低賃金の全国最低額というのが意図的であるのも再確認した。

(川口分会 H)



映画鑑賞「生きる」 & 座談会

日 時 6月18日(土)14時～17時

場 所 天満橋事務所

14時から映画「生きる」を鑑賞し、映画鑑賞後は映画の感想や自由な意見をしゃべり合える座談会をします。

映画「生きる」

監督：黒澤明 1952 年公開

東宝創立20周年記念作品 (140 分)

《あらすじ》

今まで30年間、無欠勤で無気力な日々を過ごしてきた公務員の渡辺（志村喬）は、ある日、自分が胃癌に侵されて、余命幾ばくもないことを知り、一転、絶望の淵に。職場を無断欠勤をした上、歓楽街をさまよって放蕩し、「自分のこれまでの人生は一体何だったのか」と思いを巡らせ、その答えを探そうとする。そんな中、市役所を辞めて玩具会社の工場内作業員に転職しようとしていた部下の渡辺と接するなかで、「自分にはまだできることがある」ことに気づく。「人間はいかに生きるべきか」という、誰もが避けて通ることの出来ない問題を真正面から捉え、社会への批判や風刺を交えて、明快な語り口で描いた名作。

QRコードを読み取って頂きますと、この映画の予告編をご覧になれます。→



「おしゃべり喫茶」 始まります

日 時 7月2日(土)14時～16時半

場 所 天満橋事務所



日頃、職場に対して思っていることを気楽に喋りにきませんか？組合に入ろうか入るまいか迷っているという人も参加大歓迎なので、職場の同僚、知り合いにも来てもらって組合の雰囲気を知ってもらいましょう。心地よい音楽とともにお菓子と紅茶を楽しみながら、ゆったりした時間を過ごせればと思います。

職場の問題はすぐ解決するというものではありませんが、点する組合員が顔を合わせて交流することでパワーを充填する機会にしましょう！参加無料です。